

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分
 【発行日】平成30年1月18日 (2018.1.18)

【公表番号】特表2017-502091(P2017-502091A)
 【公表日】平成29年1月19日 (2017.1.19)
 【年通号数】公開・登録公報2017-003
 【出願番号】特願2016-563904(P2016-563904)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 31/55 (2006.01)
 A 6 1 K 45/06 (2006.01)
 A 6 1 K 31/4745 (2006.01)
 A 6 1 P 35/00 (2006.01)
 A 6 1 P 35/02 (2006.01)
 A 6 1 K 47/50 (2017.01)
 A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/55
 A 6 1 K 45/06
 A 6 1 K 31/4745
 A 6 1 P 35/00
 A 6 1 P 35/02
 A 6 1 K 47/48
 A 6 1 P 43/00 1 1 1

【手続補正書】
 【提出日】平成29年11月29日 (2017.11.29)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

(a) P A R P 阻害薬の P A R P 阻害量と ; (b) 長時間作用型トポイソメラーゼ I 阻害薬のトポイソメラーゼ I 阻害量とを含む組み合わせ物。

【請求項 2】
 前記患者が癌に罹患している、請求項 1 に記載の組み合わせ物。

【請求項 3】
 前記癌が固形癌である、請求項 2 に記載の組み合わせ物。

【請求項 4】
 前記固形癌が、乳癌、卵巣癌、結腸癌、結腸直腸癌、胃癌、悪性黒色腫、肝癌、小細胞肺癌、非小細胞肺癌、甲状腺癌、腎癌、胆管癌、脳癌、子宮頸癌、上顎洞癌、膀胱癌、食道癌、ホジキン病、副腎皮質癌及びユーイング肉腫からなる群から選択される、請求項 3 に記載の組み合わせ物。

【請求項 5】
 前記癌が卵巣癌である、請求項 2 に記載の組み合わせ物。

【請求項 6】
 前記卵巣癌が白金耐性卵巣癌である、請求項 5 に記載の組み合わせ物。

【請求項 7】

前記癌が結腸直腸癌である、請求項 2 に記載の組み合わせ物。

【請求項 8】

前記癌が乳癌である、請求項 2 に記載の組み合わせ物。

【請求項 9】

前記癌が、リンパ腫癌、白血病癌、横紋筋肉腫及び神経芽細胞腫からなる群から選択される、請求項 2 に記載の組み合わせ物。

【請求項 10】

前記患者がヒトである、請求項 1 に記載の組み合わせ物。

【請求項 11】

(a) が、(b) の前に投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組み合わせ物。

【請求項 12】

(a) が、(b) の後に投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組み合わせ物。

【請求項 13】

(a) 及び (b) が同時に投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組み合わせ物。

【請求項 14】

(a) 及び (b) の各々が少なくとも 2 回投与され、その後、患者に、(b) のさらなる投与なしに (a) を投与する維持相が続くことを特徴とする、請求項 1 に記載の組み合わせ物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明は、当該技術分野におけるこれら及び他の必要性に応えようとするものである。
特定の実施形態において、例えば以下の項目が提供される。

(項目 1)

(a) PARP 阻害薬の PARP 阻害量を患者に投与するステップと；(b) 長時間作用型トポイソメラーゼ I 阻害薬のトポイソメラーゼ I 阻害量を前記患者に投与するステップとを含む方法。

(項目 2)

前記患者が癌に罹患している、項目 1 に記載の方法。

(項目 3)

前記癌が固形癌である、項目 2 に記載の方法。

(項目 4)

前記固形癌が、乳癌、卵巣癌、結腸癌、結腸直腸癌、胃癌、悪性黒色腫、肝癌、小細胞肺癌、非小細胞肺癌、甲状腺癌、腎癌、胆管癌、脳癌、子宮頸癌、上顎洞癌、膀胱癌、食道癌、ホジキン病、副腎皮質癌及びユーイング肉腫からなる群から選択される、項目 3 に記載の方法。

(項目 5)

前記癌が卵巣癌である、項目 2 に記載の方法。

(項目 6)

前記卵巣癌が白金耐性卵巣癌である、項目 5 に記載の方法。

(項目 7)

前記癌が結腸直腸癌である、項目 2 に記載の方法。

(項目 8)

乳癌である、項目 2 に記載の方法。

(項目 9)

前記癌が、リンパ腫癌、白血病癌、横紋筋肉腫及び神経芽細胞腫からなる群から選択される、項目 2 に記載の方法。

(項目 10)

前記患者がヒトである、項目 1 に記載の方法。

(項目 11)

ステップ (a) が、ステップ (b) が行われる前に行われる、項目 1 に記載の方法。

(項目 12)

(a) が、ステップ (b) が行われた後に行われる、項目 1 に記載の方法。

(項目 13)

ステップ (a) 及び (b) が同時に行われる、項目 1 に記載の方法。

(項目 14)

ステップ (a) 及び (b) の各々が少なくとも 2 回行われ、その後、患者に、前記長時間作用型トポイソメラーゼ I 阻害薬のさらなる投与なしに P A R P 阻害薬の P A R P 阻害量を投与する維持相が続く、項目 1 に記載の方法。